パイロット商品デザイン開発研究 「テーマ…… スケールアップしてみよう」

はじめに

いまや、高校生の平均身長は170cmを越える時代。住宅メーカーでは、大型化への寸法革命が進んでいる。ドアを例にとると、かつては180cmの「六尺ドア」が主流であったが、今や2メートルサイズが大半。これまでは、江戸時代の日本人の身長や手足の長さから決まった尺貫法を寸法体系としてきたわけであるが、100年余りの間に飛躍的に向上した現代人の体位には、このサイズは窮屈になってきたのである。

一方、週休二日制や一段と進んだ家庭の電化等々により日本人の心のゆとりも大きくなってきた。最近、ビックテーブル(6人掛け位の大きなサイズのテーブル)がよく売れているのも、そうしたゆとりが心に相応しいからであろう。また、ホームパーティが流行し、二人で調理できる広いキッチンを望む主婦も増えてきている。

このように身も心も大きくなった日本人にとって、住空間のスケールアップは必然のテーマである。住宅ばかりでなく、家具、道具のレベルでもスケールアップした方が相応しいものが沢山あるようだ。そこで、今年度は、「スケールアップ」をテーマに研究を展開することにした。

内 容

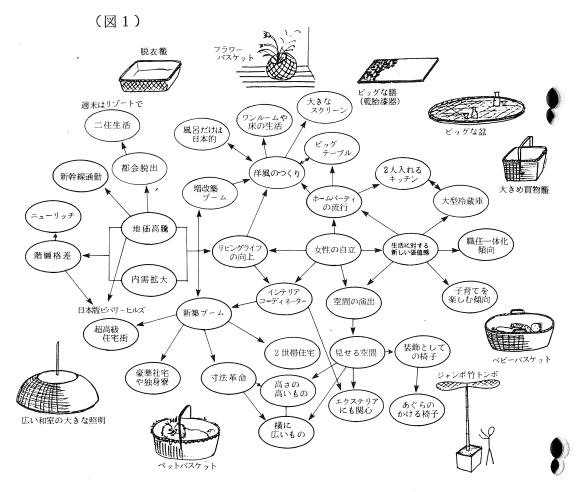
本研究は、テーマに基づいてデザインしたものを、一定数量試作し、 東京等で開催する展示会場において試験販売を行なう。そして、購買動 向や商品に対するアンケート、売場に寄せられた意見等から消費者の反 響をつかみ、それをもとにリデザインし、業界にデザイン提案や技術指 導をして商品化に結びつけるという内容である。

コンセプト

近年の地価の高騰や内需の拡大に伴って、我々の住空間は大きく様変わりしている。都会を脱出して、新幹線通勤をする人、ローンを考えて2世代住宅にする人、片や日本版ビバリーヒルズといわれるような超高級住宅街に住む人等がいるように、住宅事情も階層格差が拡がり、多様化が進んでいる。一方、社会的には女性の自立に伴ない、生活に対する新しい価値観が生まれて、インテリアを見せる空間として演出したり、気軽なホームパーティを開くようになって、それに相応しい建物や道具を求

めるようになってきている。

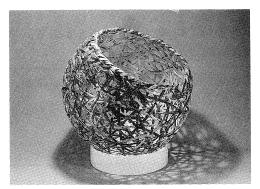
そうした社会的変化を図にまとめてみると、何らかの形での「スチールアップしたもの」を消費者が求めていることがわかる。そこで、サイズの検討を含み、スケールアップをテーマに、今までは竹を素材としては試みられてないものや、ビッグにすることで新しい使い方が提案できるもの等のアイデアを展開し、デザインを絞り込んでいった。



デザイン・試作 コンセプトに基づいて、デザイン展開した中から、次の6点を試作することにした。

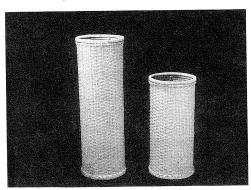
- 1. ワンフロアの空間の大きなオブジェとして "バスケット" (写真1)
- 2. ホームパーティ等でたっぷり盛れるビッグな 磁篭 " (// 2)
- 3. 緑のタワーとしてのトールな(のっぽの) 鉢カバー" (// 3)
- 4. 赤ちゃものびのび寝せてあげようと ペビーバスケット (// 4)
- 5. ペットホームもナチュラルティスト ペットバスケット (// 5)
- 6. パフェやアイスクリームもちょっと大盛り "コンポート" (// 6)

(ネーミングは写真下のとおり)

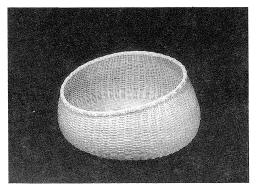


デカダンス・バスケット ・乱れ編み、巻き縁仕上げ

• 600 ∮×680 H

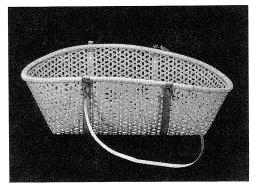


グリーンタワー ・ゴザ目編み、当て縁仕上げ ・240∮×700H・240∮×500H



マイケルホーム ・菊底編み、当て縁仕上げ ・500∮×230H

ビッグパーティ ・ゴザ目、巻き縁仕上げ ・650×650×80H



ベビーバスケット ・亀甲崩し編み、当て縁仕上げ ・900×550×285H



コ ン ポート ・くし目編み、当て縁仕上げ ・230∮×140H

試験販売及びアンケート調査

試作品に対する消費者の反響を調査するため、下記展示会場において 試験販売を実施すると共に、来場者にアンケート調査を行ない、商品化 していく上でのデータとした。

(1) 展示会名 …… 大分のクラフト展

会期 …… 平成元年7月14日~20日

会場 …… 名古屋市、三越百貨店栄本店

会期 …… 平成元年7月27日~8月1日 会場 …… 東京都、高島屋百貨店日本橋店

試験所試作品に関するアンケート -

今回は、ゆとりのある竹製品をテーマに商品開発を行ないましたが、いかがでしょうか。 今後、皆様の御意見をお聞きし、より良い商品作りを進めていきたいと思いますので、アンケ - トに御協力お願いします。

A デカダンス・ ハスケット



問1. インテリアのオブジェとしてデザインしましたが、あな たはどのような使い方をしますか。

- 1. 生花用花器
- 2. ドライフラワー・ポット
- 3. 照明
- 4. 整理篭
- 5. 装飾用
- 6. その他(

)

)

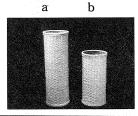
B ビッグ・ パーティー



問2. パーティー用盛篭として作りましたが、どう思われますか。

- 1. パーティー演出にぴったり
- 2. 篭を囲んでワイワイやるのにぴったり
- 3. カフェバーや割烹で業務用として使える
- 4. 大きすぎて使いづらい 5. その他(

グリーン・ タワー



問3. 鉢カバーとしてデザインしました。高さを変えて作って みましたが、どう感じますか。

- 1. a の高さがちょうどいい
- bの高さがちょうどいい
- a より高い方がいい
- 4. bより低い方がいい

D ベビー・ ハスケット



問4. ベビーバスケットとして使う以外に、あなたならどんな 風に使いますか。

- 1. 脱衣篭 3. 衣類収納篭
- 2. レジャー用バスケット
- その他(
- 4. ペットバスケット

F マイケル・

ホーム



問 5. ペットバスケットとして作りましたが、ペット(猫等) に喜ばれそうですか。

- 1. 喜ぶと思う
- 2. 喜ばないと思う
- 3. わからない
- 理由(

)

F コンポート



問 6. 何を盛ってみたいですか。

- 1. ソーメン
- 2. 果物

F

3. サラダ

)

- 4 フルーツみつ豆
- 5. その他(

)

問7. あなたはどの試作品が気に入りましたか。

Α

その理由(

R

С

D

Ε

問8. 展示会に関する感想をお聞かせ下さい。

御協力ありがとうございました。粗品をお受け取り下さい。

大分県別府産業工芸試験所

アンケート結果

アンケートは東京及び名古屋の会場の来場者、100人から意見を得た。問 $1 \sim 6$ までは、それぞれの試作品のデザインの意図等を説明しながら、印象や購入した際の使い方等を探る質問であり、ほぼ100人全員の回答を得ている。

まず、問1のデカダンスバスケットはどのような使い方をしますかという問いには、生花用花器と照明と答えた人が多く、34%と30%、以下ドライフラワーポットと装飾用にという人が、共に15%で、多様な使い方が考えられそうだ。

問2のビッグパーティは、「パーティの演出にぴったり」と「篭を囲んでワイワイやるのにぴったり」という人が同じ位多く、合わせると66%になるが、「大きくて使いづらい」という人が21%を占め、見た目は良いが、実際には使いにくいのではという気持ちがうかがえる。

問3のグリーンタワーは、高さの感じを聞いた質問であるが、低い方の高さが丁度良いと答えた人が、断然多く、66%であった。

問4のベビーバスケットについての質問は、その他の用途を聞いたもので、衣類収納篭として使うという人が多く33%であった。以下レジャー用バスケット、ペットバスケットであるが、その他で答えた人も多く、その用途は、ベビーハンモック、人形入れ、布地入れ、盛花の花器等、多様なアイデアが出された。

問5はペットバスケットとしてデザインしたが、ペットがいいデザインと思うだろうかという意味の質問で、55%の人が、猫も喜ぶデザインであろうと答えているが、31%の人はいいかどうかわからないと答え、その理由として、「入口が少し高い」「底が固い」「子猫ならいい大きさだが … 」等を挙げており、ペットの気持ちになってアドバイスしてくれている。

問6は、ガラスと竹を組み合わせたコンポートに、あなたは何を盛ってみたいかという質問で、列挙した中では、果物が39%で以下、ソーメン、サラダ、みつ豆の順番であるが、その他に「トーフ」「冷たいスープ」等ユニークな意見もあった。

問7は、6つの試作品の中で、どれが気に入りましたかというもので、一番多かったのは、Aのデカダンス・バスケットで41%、次がFのコンポートで18%であった。理由としては、Aのデカダンス・バスケットは「おもしろくて夢がある」「楽しく使えそう」等、インテリアのイメージを拡げてくれそうだという点が好まれたようだ。Fのコンポートは、「夏らしくていい」とか「夏の果物を盛りたい」という人が多く、清涼感が好まれたようである。

問8の展示会に関する感想については、「竹の美しさを見直した」とか「質の高さに感心した」というような良いイメージを抱いてくれてるなと感じるものの他に、「少しインパクトが弱い」とか「何かもの足りない感じがする」という感想もあり、もっと大胆な提案を求めている消費者の心理がうかがえる。

考 察

アンケートで好評だったAのデカダンス・バスケットとFのコンポートは試験販売でもいい結果が出ており、共に商品化に結びつく可能性が高いと判断し、業界に対して、技術情報誌等を通じて、商品化の提案を行った。

また今回は、個々のデザインの提案もさることながら、自社の製品を「スケールアップしてみましょう」と呼びかけ、従来の商品のサイズの見直しも提案した。そして、サイズを考えてみることを通して、現代の生活や消費者の心理をつかみ、そこに、新商品の切り口を求めることも提案した。

つまり、これまでは、試作品のデザインそのものに期待が寄せられていた本研究であるが、今回は、テーマそのものを提案することに重点を置いた。そのため、業界にとっては、多少期待はずれの研究であったかもしれないが、業界の商品開発力を高め、進む方向を示すためにも、こうした形での提案は今後も、続けていく必要があると考える。